

保健だより

2017年11月1日(水)発行

暑かった季節が終わり、過ごしやすい日が続くかと思ったら急に寒くなって子ども達は咳が出たり、鼻水が出たりと体調をくずしやすくなっています。熱は2～3日で下がったりしますが、気管支炎、肺炎、中耳炎、髄膜炎等の合併症が多いので気を付けましょう。

〒252-0326 相模原市
南区新戸5195-4
サンガ子ども園
電話046-255-0148



RSウイルス感染症・ヒトメタニューモウイルス感染症にご用心！

気管支炎、肺炎などの呼吸器感染症をひきおこすウイルスの一種です。主に1歳から3歳の幼児の間で流行することが多く、大人にも感染します。どちらの感染症の症状も「風邪症状」に似ています。

サンガ子ども園では過去に症状が悪化して医療機関に入院したお子さんがおりますので注意が必要です。

インフルエンザの予防接種をお忘れなく！

本格的な流行は例年1月頃からですが、今からワクチンの接種をしておきましょう。インフルエンザの感染を完全に防ぐことはできませんが、症状を軽くする効果はあります。(5歳以下の子どもに多い合併症の「脳症」は後遺症の残る確率は高く、死亡率も高いです。)インフルエンザはご家族からの感染が多いので、保護者やご兄弟姉妹の方も接種しておきましょう。

なおりにくい中耳炎

今の時期、風邪がはやると中耳炎にかかるお子さんが多くなります。中耳炎は鼻の奥で細菌やウイルスが増殖し、耳で炎症を起こしてかかります。「抗生物質」を服用すれば、すぐになおると思われがちですが、繰り返しかかり、なおりにくくなるケースが多いのです。なおりにくくなる原因の一つに抗生物質が効きにくい耐性菌の増加があります。中耳炎の原因となる主な細菌に肺炎球菌がありますが、耐性を持っているものもあります。又、耳鼻科に受診しても耳の痛みがなくなると完治しないままで通院をやめてしまうケースがあり、再発の原因の一つになっています。したがって、当園では完全になおるまで通院をお願いし、医師の「治療証明書」のご提出をお願いしています。

SIDS(乳幼児突然死症候群)とは？

全国でおよそ6,000人～7,000人に1人の赤ちゃんがこの病気で亡くなっており、1歳未満の赤ちゃんの死亡原因の上位になっています。(平成27年度では全国で96人の赤ちゃんがこの病気で亡くなっていて、1歳未満の死亡原因の第3位となっています。)生後2～6ヶ月頃に多く、まれに1歳以上でも起きています。原因はよくわかっていませんが、育児環境の中にSIDSの発生率を高めるものがあることが明らかになっています。

「SIDSを減らすためのポイント」

- ① あおむけ寝で育てましょう。・・・うつ伏せ寝は発症の危険性が高いです。
- ② タバコはやめよう。・・・父母とも喫煙している場合、発症の危険性が非常に高いです。
- ③ できるだけ母乳で育てましょう。・・・ミルクの場合、母乳の場合に比べ発症の危険性が高い。
- ④ 赤ちゃんを暖めすぎない。・・・部屋を暖かくしすぎたり赤ちゃんに厚着をさせたりすると、体温調節機能が未熟な赤ちゃんの体温は上昇し続けます。体温が上昇することで呼吸不全を起こし死亡してしまうと言われています。

※11月は「乳幼児突然死症候群(SIDS)」の対策強化月間です。(厚生労働省)

